「人形劇のまち飯田」の季刊情報誌

Dogushi

胴串 -どぐし-

Winter 2023

Vol.40

特集

新しい仲間と出会えた3年間

人形たちとつくるコミュニティスポット ほっこり

新連載

ダコタのIIDA日記

Journal de Dakota

Dogushi Vol.40 2023年2月発行 発行:「人形劇のまち飯田」運営協議会
制作:NPO法人 いいだ人形劇センター 〒395-0044 長野県飯田市本町1-2 TEL050-3583-3594 FAX0265-52-3594 E-mail:iida-puppet-c@mis.janis.or.jp

掲示板 いいだ人形劇センターからのお知らせ

川本喜八郎人形美術館 常設展示に同館初の人形登場!

飯田市川本喜八郎人形美術館では2月4日(土)から新たな常設展示が始まります。NHKで放送された『人形劇 三国志』の名場面「赤壁の戦い」と、『人形歴史スペクタクル 平家物語』の世界が繰り広げられます。なかでも「平家物語」は開館以来初となるキャラクターの人形が登場。必見です。

『平家物語』那須与一

●開館時間/9時30分~18時30分
(入館は18時まで)
●休館日/水曜(祝日開館)
●入館料/大人400円、小中高生200円
●問合せ/☎0265-23-3594

Dogushi

並木 さんぽ

本号で40号となりました。年4回10年、毎回話題に欠くことなく、続けることができました。そして、新連載もスタート。昨年5月にフランスから飯田へやってきたダコタ・ミドウさんに、飯田で生活する中で見たこと、感じたこと、人との出会いなどを綴ってもらいます。お楽しみに!次号は2023年4月発行予定です。(帆)

表紙画:井原千代子

View of IIDA

初春恒例の公演「初春を寿ぐ竹田人形館」は、八王子車人形西川古柳座を観劇しました。文楽系の三人遣いを"ろくろ"と呼ばれる車をおさめた箱に腰かけて一人で操る方法や、演目・所作についての解説などがあり楽しい時間を過ごしました。令和4年、国重要無形民俗文化財に指定。

第20回 AVIAMA 人形劇でつながる世界の都市

パルマ・デ・マヨルカ(スペイン)

地中海南西部バレアレス諸島のマヨルカ島にある都市で、2022年のAVIAMA総会で新しくメンバーとして加入しました。バレアレス諸島では、19世紀にスペインのカタロニアで上演していたAntonio Faidella Coleaという人形遣いが引っ越してきたのがきっかけで、人形劇が盛んになりました。その後は、彼の子どものJoaquinaとRosa Faidellaが伝統を継承して現在まで続いています。

パルマ・デ・マヨルカのフェスティバルは1999年に始まり、毎年5月の3週目に1週間にわたって開催されます。人形劇やオブジェクトシアター、影絵などの発展や振興を目的に、伝統的な作品から前衛的なものまで、国内外の劇団による上演が島中で行われます。このフェスティバルは新型コロナウイルスの影響でも中止になることなく開催されてきました。2023年の日程は5月15日から21日までです。

特集

新しい仲間に出会えた3年間

人形たちとつくるコミュニティスポット ほっこり

僕の中にいるこのモヤモヤした居心地の悪さは何だろう…？
仲間がいてくれると、このモヤモヤとちょっと仲良くなれそうな気がする
いや、きっと一緒に前を向いて歩いていける気がする

昨年11月に発売された『ポケットモンスター スカーレット・バイオレット』（ニンテンドースイッチ）はいじめ、不登校がモチーフになっています。主人公に倒されたリーダーたちがいじめられた過去を語る場面もあります。子どもたちの置かれている環境は人気ゲームにも反映されているのか…。ゲームと一緒にクリアできる社会を目指していきましょう。

ほっこりの活動も3月で休眠預金活用事業の3年間が終了します。2020年4月に新型コロナウイルスが広がっていくなかでの準備、8月のいいだ人形劇フェスタ中止もあり、さまざまな計画の変更のなかで始まりました。居場所づくりは何をするにも初めての連続でしたが、コロナの感染拡大に振り回されながらもなんとかここまできました。協力者や仲間が少しずつ増えて、今年度はほっこり内でのミニライブ3回とワークショップ6回、アウトリーチは8回実施できました。回を重ねていくごとに、子どもたちの現在置かれている環境を知ることもできました。社会全体の環境はよくなっている一方、心の窮屈さも大きくなっているように感じます。多様性が大事といわれながら、周りに合わせることを重視する教育にもそろそろ限界が来ているように思います。

だからこそ、ほっこりの活動が大切なのだと改めて思いました。失敗を恐れずに挑戦する機会を提供できるのが私たちの強みです。失敗も次に活かせば、それは成功に近づくためのひとつの経験に変わります。ひとりひとりの「やってみたい」という気持ちがいろいろな可能性を広げます。現代社会は自分でゴールを決めて行動することが求められます。そのために私たち大人は子どもたちといっしょに同じ方向を向いて伴走することが大事だと思います。

ほっこりも4月からは再出発することになります。これからも連携する団体といっしょに地域の課題を解決するために人形の力を信じて進んでいきます。

NPO法人いいだ人形劇センター
事務局長 木田 敬貴

日常の空間が人形劇の舞台に変身。
約30分間集中が途切れず見ていました
人形劇公演（丘のりんご・オリーブ）
11月23日

手の入れ方や布の向きによって
いろいろ変化します
モンスターパペットづくり（太陽学園）
12月3日

個性あふれる作品が展示されていました
Hugのあとりえ（飯田市川本喜八郎人形美術館）
2022年12月1日～2023年1月24日

自宅にいるような気分で見ていました
ほっこりミニライブ　11月12日

今後のイベントスケジュール

動画制作ワークショップ
日時／2月25日（土）10時、14時
※詳細はFacebook・Twitterでお知らせします

開所時間：毎週火曜 14:00～17:00
：第1・第3木曜 15:00～18:00
：第2・第4土曜 14:00～17:00
参加費：無料。時間内は自由に入退室できます
場　所：飯田市高羽町2-5-1
10台収容できる駐車場あり

お問合せ
NPO法人いいだ人形劇センター
☎050-3583-3594 担当:木田・後藤
hokkoripuppet@gmail.com

すべての道は飯田へ通ず 第29回

飯田で全力パネルシアター

パネルジャム 見米 豊

子どもたちと一緒に演じる筆者

暑さ強まる8月、いいだ人形劇フェスタは毎年とっても楽しいです。

そんな楽しいフェスタでさらに熱く上演したいと思い、毎年出演しています。フェスタでは様々な人形劇団の演目がありそれらを観るのが楽しみのひとつ。五平餅や季節の野菜に果物、おいなんよサロンの漬け物…美味しいものを食べるのも楽しみです。

そして一番は！自分が上演したときに飯田のみなさんと関わる楽しさ、これは格別ですね。みなさんが選んで観にきてくださったその期待に応えたい！何が始まるのかなと興味を持ってる子どもたち、上演が始まればみんな笑顔、言葉のやりとりも溢れていきます。

上演後には、初めて会ったとは思えないようなあたたかいやりとりが続き、手を振りハイタッチ。そんな楽しい時間を少しでも多く作りたいと思って上演希望はできる限りの数をお願いしています。

飯田のみなさんが楽しみにしている上演、思いきり一緒に楽しみたいと強く感じます。コミュニケーションいっぱいのパネルシアターで、いいだ人形劇フェスタはとっても熱いし最高に楽しいですね！

次号は「パネルシアターらぴか☆」の佐々木美香さんです

会場のお客さんを巻き込み「全力」でパネルシアター

Library Cafe 飯田とつながる世界の人形劇図書資料から㊵

人形浄瑠璃解説 下伊那小学校長会

A5サイズ10頁の小冊子だが、ガリ版刷ともいわれた孔版印刷の手書き印刷で、表紙は凝った4色刷。校長会主催の黒田人形観劇会で配布されたものだろう。人形浄瑠璃について、前半は歴史から人形の構造と舞台迄がわかりやすく書かれ、後半は伊那谷の人形と黒田人形について、さらに実演外題解説として「玉藻の前曦袂」(たまものまえあさひのたもと)を簡潔明快に解説し、とてもまとまった内容。出版年は書かれていないが、1950年代頃?。

地元の観劇会という催しに、これだけきちんとした人形浄瑠璃についての冊子を自前で用意出来るなど、地域の文化の成熟度を感じさせてくれる。

（人形劇の図書館館長・潟見英明）

文:日下部新一
表紙絵:斎藤清二郎、印刷:秀文社

“人形劇のまち飯田”から発信 ＼レポート／

人形劇の楽しさをつたえ、ひろげるワークショップ

今年度から飯田だけでなく、長野県内各地へ出かける人形劇ワークショップの出張講座を始めました。人形美術家・吉澤亜由美さんを講師に、専門的な技術を学べるものから気軽に体験できるものまでいくつかの講座を実施しました。

張り子でお面をつくろう

飯田市を会場に4日間の連続講座で張り子を体験。1日目は描いてきたデザイン画をもとに粘土でモデリングをし、石膏がけ。2日目は石膏に和紙を張り込み。3日目は石膏を割って張り子を取り出し、表面に下地を塗って着色。4日目は着色を仕上げ、裏側に持ち手を付けて実際に動かしてみました。参加した市民劇団は現在製作中の作品に使うため、家のインテリアにするからとペットのお面をつくるなど、それぞれに味のある作品が完成しました。

ちっちゃい人形をつくろう

飯山市子ども館「きらら」を会場に、園児から小学校低学年の子どもたちが自分でつくって遊べる人形づくりを実施。最初に講師による“ちっちゃい人形”を使った寸劇を観た後、各自が頭、胴体などのパーツを選び作業開始。装飾用のシールやレースなどを組み合わせて、自分だけの人形が出来上がりました。人形をお友だちと見せ合ったりしているうちに「動かしたい!」と次々に声があがり、先ほどの舞台で子どもたちの寸劇が始まって賑やかな講座となりました。

ハンドパペットをつくろう

11月は辰野町立辰野図書館、12月は伊那市のグループホームおもちゃの木を会場に、大人対象で片手遣いの人形をつくりました。講座の一番のポイントは球体に布をはること。参加者は講師の丁寧な指導で少しずつコツをつかみ、はり込み終了。つくりたいキャラクターをイメージして目鼻をつける、衣装を着せるなどして、開始から3時間後個性的な人形が完成しました。

今後は複数のプログラムを考案し、人形劇の楽しさを少しずつ広げていきます。
図書館や公民館などのお楽しみ会、各団体の催し等で計画したいという方は気軽にお声掛けください。
NPO法人いいだ人形劇センター ☎050-3583-3594

支援:信州アーツカウンシル（一般財団法人長野県文化振興事業団）令和4年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

“人形劇のまち飯田”の情報誌

Dogushiが通巻40号になりました！

人形劇のまち飯田の季刊情報誌『Dogushi』が、本号で通巻40号になりました。平成25年5月創刊以来、飯田の人形劇にまつわることはもちろん、海外の話題なども数多く取り上げ、小さい誌面の中にいろいろな情報をぎゅっと詰め込んできました。飯田下伊那の公共施設や飲食店のほか、全国の人形劇関連施設や文化施設にありますので見かけたら手に取ってみてください。

3月中旬から飯田市川本喜八郎人形美術館2F交流ゾーンにて、創刊号から表紙絵を描いてくださっている飯田市の会社員・井原千代子さんの「Dogushi表紙原画展」を開催します。これまでの作品の中から厳選して20点ほどを展示予定。ぜひお出かけください。

新連載

ダコタのIIDA日記

Journal de Dakota

こんにちは！ダコタ・ミドウです

2022年5月、フランスのシャルルヴィル・メジエールから飯田文化会館で働くために飯田市に来ました。え一何の仕事をしていますかと思っていますね。簡単に言うと、国際交流の仕事をしています。例えば龍江小学校とシャルルヴィルのNotre-Dame小学校の交流に関する仕事やAVIAMAの仕事をしています。通訳や翻訳、国際連絡のことを担当します。

でもここで何の話をしますか？日本に住むのは初めてじゃないですけど、飯田市に住むのは初めてです。それでここは自分の飯田市経験を伝えます！

文化会館の仕事で浄瑠璃の公演を見る機会がありました。今日はこの経験を伝えたいです。今田人形のロウソク公演を見た時には人形のサイズと上演の雰囲気には本当に驚きました。こんな大きな人形がスムーズに動けるのはすごくて、生きている感じがしました。ロウソクの雰囲気で過去に戻りました。過去に旅行したと思いました。見たことがなかったら、是非一回見に行ってみてください。

今田人形座「戎舞」
大宮八幡宮秋季例祭 奉納公演（2022年10月15日）

日本ウニマ通信

世界みてある記⑭

NPO法人人形劇ファクトリー　松澤　文子

ビアウィストック人形劇場（ポーランド）

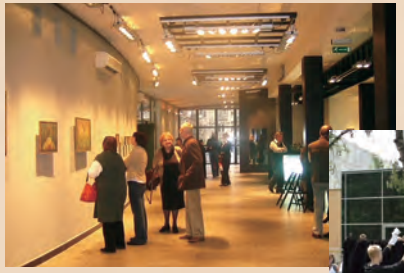
ビアウィストックはワルシャワの北東80キロ、ポドラシェ県の県庁所在地、人口30万人の都市です。

市立人形劇団、市立人形劇場は1953年創立、毎年開催の人形劇フェスティバル、人形劇大学（正式にはアレクサンドル・ゼルヴェロヴィチ国立演劇アカデミー・ビアウィストック校）4点セットが揃った、人形劇の街です。

人形劇団と人形劇場の運営費は、ほぼ100％公的支援で運営されています。（毎度のことですが、羨ましい限り！）劇場は3つあり、客席197席、93席、リハーサル用ステージは40席です。入場料は大人1,700円、子ども940円です。

劇団所属の俳優、演出家、脚本家など30名、技術スタッフ8名、事務局11名、美術6名、ドライバー1名、清掃員4名、合計60名。他に音楽監督、舞台監督、長期契約の俳優など38名、総勢98名の大所帯です。

私は30年ほど前にこの劇団の「風と少年」という作品を招聘しました。斬新なデザインと洗練された演出にポーランドの人形劇の質の高さに感動しました。いつか飯田でも公演してもらいたいですね。



劇場のロビー

劇場の入口でこんな上演も